

事例 2. 情報の選択能力を育てる授業（3年 説明文・
4年 民話の指導）

—— 読書単元の指導を通して ——

小学校 3 年国語「虫のゆりかご」（光村）

小学校 4 年国語「吉 四 六 話」（光村）

実践 1. 3 年国語 単元名「しぜんのふしぎ発表会」

1. 本単元でねらう情報の選択能力とは何か

(1) 単元の目標

- ◎ オトシブミが木の葉のゆりかごを作る様子を、絵と文を照応させたり箇条書きにまとめたりしながら工夫して読み取ることができる。

(2) 情報活用能力に関わる目標

- 自分で探し出した図鑑や図書から、自然の不思議を紹介するための材料を選び出すことができる。

(3) 本単元で情報の選択能力を育てる意味

情報の選択能力とは、自分の興味や目的に即して、文章や絵・図表等の資料から必要のある情報を選び出す力である。本単元では、教材の特性や子供の実態を踏まえ、本単元では、次のような子供の姿の具現化を目指す。

多くの本の中から必要な本を探し出し、絵や写真と文とを対応させながら読み、自分の調べたい事柄について、情報を選び出すことのできる子供

ア. 教材の特性

教材文「虫のゆりかご」はウスモンオトシブミのゆりかご作りの様子が絵と文で説明されている。科学的読み物では、絵や写真が重要な役割を果たしている。本教材も絵が文章の理解を助ける役割を果たしている。したがって、「虫

のゆりかご」の学習では、絵と文の情報を対応させながら、説明されている内容を確かに読み取っていくことが大切である。

本単元「しぜんのふしぎ」は、教材文「虫のゆりかご」で自然界に生きるウスモンオトシブの知恵を読み取ることから、自分なりに科学的読み物を読もうとする子供の意欲を引き出し、実際に読書に取り組むことを意図している。自分の興味のある虫や動物を調べるには、学校図書館のどの本を選び、読めばよいかという問題場面が生じてくる。この問題場面に焦点をあて、情報の選択能力の育成を考えた。

イ. 児童の実態

科学的読み物については、男子は好んで読む傾向にあるが、女子は絵本や物語を好む傾向にある。男子は、科学的読み物を読む際、文章よりも絵や写真の内容の方に興味をひかれて読んでいる場合が多い。また、自分なりにはっきりした目的をもって本を選び、主体的に読もうとする子供は全体にまだ少ない。

2. どう情報の選択能力を育てるか

(1) 情報の選択能力を育てる手立て

ア. 「しぜんのふしぎ」発表会をしようという活動を設定する

教材文を読み、自分の興味のある虫や動物について調べる活動を設定するだけでなく、自分の調べた「しぜんのふしぎ」を学級の友達に教えようという活動を単元に設定する。そのことにより、子供たちは目的意識をもって科学的読み物を読み、情報を選択すると考えた。

イ. 図書一覧表を児童に提示する

図書館から学級に運んできた科学的読み物の一覧表を太洋紙に書き出し、児童に提示する。児童は、自分の問題解決のために必要な情報が書かれていそうな本を予想することができると考えた。

ウ. 目次や索引の利用の仕方を知らせる

効率よく情報を選択するための手段として、図書資料の目次や索引の利用の仕方を実際の図鑑などを使って知らせる。どのようにすれば必要とする情報を探し出すことができるのかを知ること、子供たちは、活動への追求意欲をもち、主体的に取り組むことができると考えた。

(2) 評価の観点

- 科学的読み物を進んで読み、「しぜんのふしぎ」について進んで調べようとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- 図鑑や科学的読み物から得た情報を、ワークシートにまとめ、発表することができる。
(表現の能力)
- 絵と文章を照応させながら、オトシブミが木の葉のゆりかごを作る様子を読み取ることができる。
(理解の能力)
- 自分の調べようとすることを落とさないで文章を読むことができる。
(言語についての知識・理解・技能)

(3) 単元の計画 (全10時間 本時 6 / 10)

次	主な学習活動	情報活用能力育成に関わる支援・評価 支援 (□)・評価 (○)
一 次	<ul style="list-style-type: none"> ・「虫のゆりかご」を読み、感想を書く。(1時間) ・一枚の葉をゆりかごに作り変えていく過程をさし絵と文を照応させながら読み取る。(2時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ○初めて知ったことや疑問に思ったことが書けたか。 □挿絵を印刷したワークシートへ、絵と照応した文を箇条書きさせる。 ○ゆりかご作りの過程をとらえることができたか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の調べたい問題について話し合い、調べることを決定する。(1時間) 	<ul style="list-style-type: none"> □前次の学習と関連させながら、発表会をしようという雰囲気作りをする。 ○調べようとすることを決めることができたか。
二 次	<ul style="list-style-type: none"> ・本の見つけ方や目次や索引の見方を知る。(1時間) ・図書資料を探して調べ、分かったことをワークシートにまとめる。(2時間……本時 1 / 2) 	<ul style="list-style-type: none"> ○書名や目次、索引から必要な情報を検索する方法を知ることができたか。 □科学的読み物や図鑑をできるだけたくさん教室に常備し、一覧表を提示する。 □必要な情報の選択がうまくできずに困っている児童には、既習事項を想起させるような助言をする。 ○問題解決のできる本を探し出し、必要な情報を選択することができたか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・発表練習をする。(1時間) ・「しぜんのふしぎ発表会」を開く。(2時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを基に、内容を付加修正しながら、発表練習ができたか。 □発表会の雰囲気を盛り上げる。

○参考図書を紹介しながら、進んで発表できたか。

3. 本時の授業

(1) 本時のねらい

◎ 科学的読み物の中から自分の問題解決に役立ちそうな本を探し出し、必要な情報を選択することができる。

(2) 授業の実際（本時 5 / 10時間目）

前時までに出された、児童の調べたい問題は以下のような問題であった。

- ・ どうして、かみなりはおちるのか。
- ・ 葉は季節によって、なぜ色がちがうのか。
- ・ どうして犬はべろをいつも出しているのだろう。
- ・ わたり鳥は、どんなところから何日くらいかかってくるのだろう。
- ・ シカはなぜつのがはえかわるのだろう。
- ・ 地球にどうして石油があるのだろう。

（その他 略）

このような問題を書いた短冊を黒板に掲示し、次のように働きかけた。

指示 1

自分の調べたい問題の所にネーム磁石を貼ってごらん。

子供たちは黒板の前に出て、自分の調べたい問題の所に自分の名前を貼った。全員の問題を黒板に掲示し、さらにネーム磁石を貼らせることで、自分と同じ問題を調べようとしている友達の存在に気付くことができた。

次に、教室の壁面に掲示しておいた図書一覧表を指し次のように働きかけた。

発問 1

どの本で調べれば分かりそうかな。

C 1 ぼくは125番の本を調べれば分かりそうだ。

C 2 あれとあれを調べればいいな。

C 3 わたしは「シカのくらし」という本を調べます。

児童は、図書一覧表を見て、書名から自分の問題を解決できそうな本を予想していった。教室には、あかね書房の「科学のアルバム」シリーズを中心に、大日本図書の「子ども科学図書館」など150冊の科学的読み物を置いた。図書一覧表には、本の検索がしやすいように、シリーズごとに色分けをした書名を書いておいた。しかし、一覧表からは自分の問題を解決できそうな本が見当たらないという児童も数人いた。そこで、次のように問い掛けた。

発問2

本が見つからないという人がいます。どうしたらいいでしょうか。

C 図書館にある図鑑を使って調べたらいいと思います。

C 図鑑を使いたい。

C 百科事典で調べればいいと思います。

C 先生、図書館に行ってきたでもいいですか。

子供たちは、前時に図鑑の目次や索引の見方を学習している。そのためか、図鑑や百科事典を使って調べたいという子供たちが多く出てきた。

そこで、次のことを子供たちに確認した。

- ・図鑑や百科事典を使用してよい。
- ・調べようとする本が友達と重なってしまった場合には、席を移動して一緒に調べてよい。
- ・予想を立てた本を読んでみたが、調べたいことがのっていない場合は別な本を探したり、別な方法を考える。

指示2

調べて分かったことはノートに書いておきましょう。では、探してごらん。

子供たちは、一斉に教室においてある図書資料を探しに行った。図書館へ図鑑などを探しにいく子供も見られた。

予想を立てた本を探し出すと、子供たちはすぐに読み始めた。必要な情報をノートに複写したり、自分と同じ問題を調べている友達のところに行き、情報

交換する子供が多く見られた。自分の調べたいことに関係する記述を見つけることはできたが、難語句があり、文章の意味がつかめない子供には国語辞典を使うよう支援した。自分の立てた問題を解決するために、意欲的に学習に取り組んでいる姿が多く見られた。例えば、次のようなA子、B子の姿である。

A子は、「季節によって、どうしてもみじの葉っぱの色は変わるのかな」という問題を前時に立てていた。A子は、150冊の本の中から「紅葉のふしぎ」という本を選び出し、自分の立てた問題について、国語辞典なども併用しながら意欲的に調べていた。A子は、もみじという言葉が書かれている小見出しやもみじの写真を手がかりに、本から次のような情報を抜き出し、書いていた。

— A子のノート —

葉の中の葉緑素がこわれて緑色が消えると、いままでめだたなかったカロチノイドという黄色い色素がうきだしてみえます。これが紅葉です。

葉緑素 …… 植物の葉などにふくまれている緑色の色素

色 素 …… 花に色をつけるぶっしつ

B子は「シカはなぜつのがはえかわるのだろう」という問題を前時に立てた。この問題についてB子は、「シカのくらし」という本を手にとって、調べ読みし、次のようなメモをノートに書き出していた。

— B子のノート —

しかのつのはえだわかれする。毎年、春になるとしかのつのは、はえかわって、えだが1本、2本、3本とふえる。

1才のときは、ゴボウヅノという。(中略)

つがあることによって、てきから身をまもることができる。けっこんのきせつで、めすをめぐってのたたかいをするときにつのをつかう。

授業の終わりを告げるチャイムが鳴っても、まだ調べようとする姿が多く見られた。自分の立てた問題を最後まで続けて調べてみることに、学校の図書館を探して見つからなかった時は、地域の図書館も利用できることなども確認して、授業を終えた。

4. 授業の考察

本時では、科学的読み物を意欲的に調べ読みする子供が多くみられた。これは、自然の不思議な出来事について自分なりに追究したい問題をもたせ、科学的読み物（図書資料）を利用して調べる活動や「しぜんのふしぎ」発表会をしようという活動を設定したからと考える。情報の選択能力を培うためには、情報を求める意欲や関心を子供たちにもたせることが、不可欠である。

本時で求める情報の選択能力とは、自分に必要な情報が書かれていると思われる本を探し、さらにその本の中から必要な情報をいち速く選び出す力である。特に、本の中から必要な情報を効率よく選び出すためには、本の目次や索引の利用法を知り、実際にそれを活用できることが大切だと考える。また、写真やさし絵そのものも、必要な情報を探す際の検索の観点となる。

例えば、前述したB子は、必要な情報を本から得ようとする際に、写真を手がかりにして探していた。写真を説明をしている文に着目して、それをノートにメモしていたからである。以下、ノートのメモをまとめたB子の「しかのふしぎ」調べのワークシートを示す。

シカ	のふしぎ	名前 K.H
わたしはおすのシカだけつのがはえかゆることをシカのくさといふことでしるやました。		
わたしはおすのシカだけつのがはえかゆるのをさとしてました。		
シカのつのはえだめかれします。		
えだめかれするのは毎年春になるとつのがはえかゆって、えだめかー本を本、まきでふんていきます。		
シカがまだーオのときはえだのないうみた、なのでそのつこのことをゴボウツノといふそうです。		
シカがオオのときにはー本えだめかれするのから、つうたいでえだめかーくしてまだ不完全なシカもどるそうです。		
オオのときには、つばえだめかれするのから、つうだけとえだめかーが不完全だ、たりつのか、形だ、たりするシカもいるそうです。		
オオ以上のときには、さ本えだめかれしてりばなつのにあります、オオ以上は、オオになるそうです。		
シカはなぜ、つのがはえかゆるかというところ、これは、まきから身をまもったり、けいこんのきせつでめすをめぐって、つのがのたにかいをするときに、つかうそうです。		
わたしはシカのくさしうやたのは、まきにテレビで見たり、つのがはえかゆること、いしたことかあったからしす。		
しんがた本の、だいい（シカのくさし） 書いじん（堀田辰樹）		

情報の選択には、本に書かれている情報を理解し、さらにそれが自分にとっ

て必要な情報かどうかを判断することが必要である。科学的読み物の特性として、文章の情報と写真や挿し絵の情報とを対応させながら読むものが圧倒的に多い。したがって、科学的読み物から情報を選択していく場合、まず、文章と写真や挿し絵を対応させながら情報を確かに読み取る力がその前提として要請されていると言える。

学校図書館の機能を活用する子供を育てるためにも、本実践のように、図書館資料を用いる学習の場を多く設け、資料や情報を検索する力を高めていくことが重要であると考えている。

課題に残ったことは、子供自身に追求したい問題を設定させる際に、自分の抱いた疑問が、図書館資料を調べていくことにより解決可能な問題と言えるのかどうかを、どう見通させていくかということである。問題解決の見通しのもたせ方やその支援の在り方を今後の実践を通して更に究明したい。

実践 2. 4 年国語 単元名「民話新聞をつくろう」

1. 本単元でねらう情報の選択能力とは何か

(1) 単元の目標

- ◎ 三つの話を比較しながら読み、民話のおもしろさに気付き、民話に託された人々の願いを考えることができる。

(2) 情報活用能力に関わる目標

- 民話を読んだ感想を収集することを通して、民話新聞に書く記事の材料を見通しをもって選び出すことができる。

(3) 本単元で情報の選択能力を育てる意味

本単元では教材の特性や児童の実態を考え、次のような子供の具現を目指す。

民話を読んだ感想を「民話読書カード」に収集する活動を通して、民話新聞に書く記事の材料を見通しをもって選び出すことができる子供

3 年生での学習「しぜんのふしぎ発表会」では、自分のもった問題に対して

どう解決の見通しをもたせながら、情報を選択させるかということが課題として残った。そこで本単元では、民話を読んだ感想を収集する活動を通して、民話新聞を作るための記事情報を見通しをもって選択できるように学習単元を構想した。このことにより、情報の選択能力を培うことができると考えた。

ア. 教材の特性

本単元における主教材「吉四六話」は、三つの話で構成されている。三つの話はどれも子供たちに分かりやすく、楽しい話である。一話あたりの文章の長さも比較的短く、どの子供にとっても抵抗なく読める内容である。したがって、この民話教材は、内容や表現のおもしろさに着目して情報を抜き出す力を培ったり、民話という作品ジャンルを読み広げていこうとする意欲をもたせたりする上で適切な教材であると考えた。

イ. 児童の実態

民話については「好き」と答える児童がほとんどである。しかし、民話についての子供たちの読書経験を調べてみると、教科書教材や有名な民話に限られていることが分かった。したがって、「吉四六話」の学習を契機に、様々なタイプの民話や様々な国の民話を読書を通して主体的に触れることによって、読書の幅を広げることができると考えた。

また、図書資料から情報を選択する力という点からみると、情報を求めたいという興味・関心はあるものの、問題解決の見通しをもって情報を選択する力が不足している子供が少なくない。

2. どう情報の選択能力を育てるか

(1) 情報の選択能力を育てる手立て

ア. 「民話新聞をつくろう」という活動を設定する

「民話新聞を作ろう」という活動を設定することにより、民話新聞の記事を書くために進んで民話を読もうとする意欲をもたせることができると考えた。

また、民話新聞にどの記事を載せるか、「民話読書カード」の情報を基に考え、そこから必要な情報を選ぶ活動を通して、情報の選択能力を育てることに働くと考えた。さらに、様々なタイプの民話や様々な国の民話を読むことにより、結果的に読書の幅を広げることにもつながると考えた。

イ. 民話を読んだ簡単な感想を「民話読書カード」に取材させる

民話新聞を書くという目的に即して必要な記事を選択するためには、民話に数多くふれ、民話にかかわる記事材料（情報）をある程度、自分でもっていることが必要である。そのために民話を読む時間を確保しながら、民話を読んだ後、簡単な感想を「民話読書カード」に取材メモさせる。この取材メモを数多く集めさせることにより、民話新聞に書く材料を選択する際に活用することができると考えた。「民話読書カード」は、B 6 サイズとし、読んだ民話についての簡単な感想、題名や作者名を記入できるようにした。

毎授業の始めに、読んだ民話について簡単な感想を発表する「民話紹介タイム」を設定する。友達の民話紹介を聞くことにより、民話を読もうとする興味・関心を喚起させるとともに、民話新聞の記事を選ぶ際のヒントに役立たせようと考えた。

- 民話を進んで読み、自分なりに「民話新聞」にまとめようとする。

(国語への関心・意欲・態度)

- 民話を読んだり聞いたりして得た情報や感想を生かして、「民話新聞」に書き表すことができる。

(表現の能力)

- 「吉四六話」やその他の民話を読むことにより、民話の内容や表現のおもしろさをとらえ、民話に託された人々の願いを考えることができる。

(理解の能力)

- 方言の使い方や民話の語り口のおもしろさを生かして音読することができる。

(言語についての知識・理解・技能)

(3) 単元の計画（全10時間）

次	主な学習活動	情報活用能力育成に関わる支援・評価
一 次	<ul style="list-style-type: none">・「吉四六話」を読み、読んだ感想を話し合う。・民話新聞のおもしろさを知り、「民話新聞を作ろう」というめあてをもつ。（2時間）	<ul style="list-style-type: none">□内容のおもしろさだけでなく、表現のおもしろさにも着目させる。○民話のおもしろさに気付き、民話新聞を作る自分なりのめあてをもつことができたか。

二 次	<ul style="list-style-type: none"> ・「吉四六話」の三つの話を読み、民話のおもしろさを味わう。(3時間) 	<input type="checkbox"/> 学級に「民話文庫」を設置し、民話に親しみやすい雰囲気を作る。 <input type="checkbox"/> とんちのおもしろさを読み取り、民話に託された人々の願いを考えることができたか。
三 次	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞作りの計画を立て、書くとする事柄に合った民話を選び出し「民話新聞」を作る。(4時間 本時1/4) ・友達の書いた新聞を読み、互いのよさに気付く。(1時間) 	<input type="checkbox"/> 新聞作りの経験を想起させ、作りたい民話新聞の計画を立てさせる。 <input type="checkbox"/> 新聞記事の見出しに留意させる。 <input type="checkbox"/> 民話新聞を作るために、必要な情報を「民話読書カード」などを活用し、選択することができたか。 <input type="checkbox"/> 友達の作った民話新聞の内容や構成の工夫点を見付けることができたか。

3. 本時の授業

(1) 本時のねらい

- ◎ これまで書いてきた「民話読書カード」を振り返ることにより、「民話新聞」に書きたい記事のおよその内容を決め、さらに読む必要のある本に気が付き、記事の取材をすることができる。

(2) 授業の実際(本時6/10)

授業の始めに「民話紹介タイム」で、民話を各班一人ずつ紹介し合わせた後、次のように働きかけた。

指示1. 「民話新聞」に書きたい記事を考えてみよう。

- C1 すすめたい本。
- C2 民話クイズ。
- C3 おもしろい話ベスト3。
- C4 四コママンガもかきたいな。

どんな記事を民話新聞に盛り込みたいか、今まで自分の書いてきた「民話読書カード」を振り返らせた後、グループで互いのアイデアを紹介し合わせた。

個人で考える際、これまで書いてきた「民話読書カード」を見て、書きたい記事を決めている姿が見られた。例えば、C男は「とんちのうまい人ベスト3」

という記事を書くことに自分で決めた。C男の書いた24枚の「民話読書カード」の内、とんち話は次の15枚であった。

①井戸の神様／②山をもってくる／③茶のみのたわら／④お正月だけの名前／⑤まにあったねんぐ／⑥しょうべんをぐくり／⑦こんど火事があったら／⑧まさかそげんことは／⑨べんとうがしごとをする／⑩米のめしのべんとう／⑪けちんぼくらべ／⑫こぼれるからあけてくれ／⑬あまのじゃく／⑭いのちがあぶない／⑮ババクロウというさかな

このことから、C男が民話新聞に書く記事の選択を行う際に、「民話読書カード」に書き蓄めた情報を生かしていることが分かる。

子供たちは、民話新聞に書きたい記事をグループで紹介し合う活動を通して、記事にするため、さらに読む必要のある民話があることに気付いていった。

そこで「記事を書くためには、もっとどの民話を読めばいいかな。」と働きかけた。「はらばなしの本を読んで探したい」「とんち話をもっと読んで探したい」などと言う声子供たちから上がった。

その後、記事にするために必要な本を探し、その本を読むことから記事取材する活動へと学習を進めていった。「民話読書カード」は「とんち話」「はら話」「動物、おばけ話」等に分類し、教室に掲示しておいた。教室に掲示されている友達の「民話読書カード」を参考にして、目的とする本を探す姿が多く見られた。

4. 授業の考察

本時で「とんちのうまい人ベスト3」の記事を書こうと決めたC男は、その後、とんち話にかかわる友達の「民話読書カード」を参考にし、次の民話をさらに読むといいことに気付いた。「足のおもてと足のうら」／「犬は人間の手本」／「なきだしたしゅじゅどん」／「ねこがみわける」／「吉四六さんとごさくどん」などである。これらの民話を読むことにより、C男は「とんちのうまい人ベスト3」の記事を書き上げることができた。次頁に示したのは、C男が作った「民話新聞」である。

以上のことから、C男は自分の書きためた「民話読書カード」だけでなく、

友達の「民話読書カード」も参考にして「民話新聞」の記事を書いていたと言える。

民話を読んだ感想を「民話読書カード」に書き、それを誰もが見える掲示板に分類して示しておくことにより、子供たちが「民話新聞」を作る上で自分に必要な情報を見通し、また必要な情報を選択することができたと考える。したがって、「民話新聞」を作る活動の設定や、読書の記録を「民話読書カード」に書かせ、

それを新聞の記事内容の選択や記述に生かす手立ては、子供たちの情報の選択能力を育てる上で有効だったと考える。

しかし、本単元の実践を通して課題に残ったことがある。それは、単元の指導計画にかかわって、二次での「吉四六話」の読みの学習を三次の民話新聞作りの学習へどう課題意識を発展させ、技能的関連を図っていくかという問題である。本実践においては、そのことの究明が必ずしも十分でなかったと反省している。

読書単元としての扱い方も含め、主教材の読みの活動とそれに発展する民話



新聞作りの活動とにどう目標的関連と機能的関連をもたせていくかという問題について、今後の実践を通して更に究明していきたい。

＜情報活用能力育成にかかわる取組の成果＞

情報活用能力の育成にかかわる取組を2年間、同じ学級で行うことができた。その成果と思われる出来事が、普段の生活場面でみられるようになってきた。その一つの出来事を紹介しておきたい。

9月の連休に湯沢にキャンプに行った子供が、山で拾った「オニグルミ」をお土産に持ってきてくれた。朝の会で紹介すると、「何ていうクルミなの？」という質問があった。4年3組38人全員が名前を答えられない。そこで「どこへ行けば分かる」と聞いてみた。すると「図書館だ」という声がすぐに上がる。さっそく、子供たちが休み時間、図書館に行って調べ始めた。子供たちの様子を見てみると、いろいろな図鑑や科学読み物を手にして調べている。「調べられそうだと思う本を教室に持って行って調べてみよう」と子供たちに話し、3時間目に班で相談しながら調べることとなった。結局、「オニグルミ」であることを判別できる本は以下の11冊であった。

①知育ずかん「やさいとくだもの」、②原色ワイド図鑑9「樹木・果実」③標準原色図鑑全集8「樹木」、④標準原色図鑑全集13「有用植物」、⑤ニューベスト21ベスト図解百科3、⑥なぜなぜ学習こども百科4、⑦理科の実験観察シリーズ41、⑧福音館のかがかくのほん「木の本」、⑨福音館「自然図鑑」、⑩みるずかん・かんじるずかん、⑪FIELD-PAL「野外探検大図鑑」

以上の図書から子供たちは、協力しながら写真や図、説明などからおみやげのクルミが「サワグルミ」や「テウチグルミ」（カシグルミ）でもなく、「オニグルミ」であることをつきとめていった。

上の例は、情報活用能力育成の取組を継続的、系統的に続けると、子供たちが課題解決に図書館資料を主体的に用いるようになることを物語るものである。

5. 情報活用能力を育成する年間指導計画（3 学年）

◎ 重点化して扱う教材

月	教 材 名	情報活用能力育成に関わる主な学習活動	育成する情報活用能力	そ の 他
4	かげを見つけたカンガルーぼうや	・カンガルーについて動物図鑑で調べる。	・情報の収集	図鑑のある場所を知らせる。
5	みいつけた朝が来ると	・詩集から好きな詩を見つけ、視写する。	・情報の選択	好きな詩を紹介させる。
	ろく木のぼり	・カードを基に作文を書く。	・情報の処理	
6	◎おもちゃ作り	・おもちゃの作り方を紹介する。	・情報の伝達 (図やメモの活用)	図書館で学習を組織する。
7	つり橋わたれ	・ファンタジー作品を中心に、読みたい本を選んで読み、感想を発表する。	・情報の伝達 (本の紹介)	読書会を開く。
	エルマー、とらにあう	・読書カードを作り夏休みの読書計画を立てる。	・情報の保存 (カードの活用)	読書カードをまとめてファイルさせる。
9	シャボン玉の色がわり	・シャボン玉の色とまぐのあつさの関係を表にまとめる。	・情報の処理 (ワークシートを活用する)	
10	モチモチの木	・同じ作者の他の物語を読み、好きな話を紹介し合う。	・情報の収集	斉藤隆介文庫を設置する。
	◎写真や表を見て	・写真や表からどんなことが分かるか見つける。	・情報の選択 (校区内のスーパーの写真と自校の給食の献立表を使用)	写真には季節特有の情報を盛り込む。

11	空気であらう	<ul style="list-style-type: none"> 理科ノートのデータを基に、取材メモを完成できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の処理 	理科「空気と水」と関連させる。
12	◎虫のゆりかご	<ul style="list-style-type: none"> 科学的読み物を読んで、しぜんのふしぎを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の選択 (図書一覧表の活用 ・目次、索引の使い方) 	「しぜんのふしぎ」発表会を開く。
1	ちいちゃんのかげおくり	<ul style="list-style-type: none"> 戦時中のくらしについて、お年寄から話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の収集 (取材の仕方やメモの取り方を工夫) 	情報交換の場を設定する。
2	◎宝物をさがしに	<ul style="list-style-type: none"> 宝島の地図に対応した想像作文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の創造 	文集作りをする。
3	紙しばいを作ろう	<ul style="list-style-type: none"> 物語の中で一番好きな作品を紙しばいに作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の処理 (課題別グループ) 	作った紙芝居を2年生に見せる。